

4 まとめ

4-1. 項目別合格点の領域等

仮に、ポイント4「まあそうである」を合格点とし、項目毎にポイント4を超えた領域を集計した(表11)。また、ポイント4に達しなかった領域の平均値を一覧表に示した(表12)。

多くの調査項目を通じ「日本語・日本事情」領域の評価が一番高いのが印象的である(表11)。それにはいくつか理由が考えられよう:1) 異国から来て、西も東も分からない留学生に、いかに日本語や日本の事情を教えるか、教官が日夜研鑽を積んでいる、2) 異国へ学びに来ていた留学生は、日本語能力獲得に切実な必要性を感じており、成果が上がった時の満足度が大きく評価に反映される、3) 授業科目「日本語」は1クラス5-6名と極めて少人数で、銘々の学生に教官の目が行き届き、教官と学生の心理的、物理的距離が短く双方のコミュニケーションが取り易い等々。2番目に学生の評価の高い領域は「健康・スポーツ」領域である。「情報処理」、「外国語」がそれに続き、いずれもskillに関連する領域である。

ポイント4「まあそうである」に達しなかった領域の平均値に基づくと、「双方向性(教官の一方的授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか)」に対する評価が際立って低い。次に低いのが「内容の理解(内容を理解できましたか)」、「資料提示の見やすさ(板書やOHPなどの資料提示は見やすかったですか)」、「教科書等情報(教科書の指定・推薦や参考書などの情報提供は適切でしたか)」で、「教授法の工夫(授業方法は工夫されていましたか)」と「教授法(教え方(教授法)はわかりやすかったですか)」が続く。

4-2. 今後の課題

- 1) 教育方法等改善委員会委員長の鬼武副学長が委員会の席で次の趣旨の発言をなさった:「山形大学の教官に取って、授業の改善を行っていくことは当然の義務である。したがって、教官は、誰しも授業改善に努力しているはずなので、授業改善のためのアンケートを実施しなかった教官は、授業改善については独自の方法で実施されているはずである。是非、独自の取り組みについてお聞きしたいと考えている。その中で、参考になる試みやご意見は取り入れて、本学の授業改善をより一層進めたい。」鬼武委員長のおっしゃる様に、アンケートを実施しなかった教官に対する事後調査をし、参考になる試みや意見を、本学の授業改善事業に取り入れて行く必要があるだろう。
- 2) 「欠席の常連」や「履修放棄者」の意見は、アンケート結果には反映されない。これら学生の「欠席」、「履修放棄」の理由を明らかにする必要がある。
- 3) 学生の受講動機で「単位が取り易そうだから」が2位である。学生は、シラバスを見て「単位が取り易そう」かどうかを判断していると思われる。もしそうなら、シラバスの書き方次第で、受講者数が左右されることを意味する。どのようなシラバスをもって、学生が「単位を取り易そう」と判断するのか検討に値しよう。

- 4) 「他が満員」という受講動機が「文化・行動」の前期4位、「政経・社会」の後期5位、「外国語」の前期4位、後期5位に挙げられており、これら領域における需給のミスマッチが伺われる。このミスマッチが許容範囲なのか、対策を講ずる必要がある程なのか検討する必要がある。
- 5) 結果は、本学で配布している「シラバス」は概ね合格と判断しても良いことを示唆している。しかし、あれは「授業概要」ではあるが「シラバス」ではないという意見もある。「授業概要」なら「授業概要」でも良いであろう。本学として、どのような形式の冊子を学生に配布するか、現行の「授業概要」を充実させて行くのか、本来の「シラバス」を目指すのか検討の必要がある。
- 6) 結果は、授業に対する教官の熱意は十分にあるのだが、教え方にはまだまだ工夫の余地があり、熱意だけが空回りしている様子を示唆している。授業に際して、学生の私語、携帯電話の呼び出し音等を放置せず、話し方は「大きな声」で「発音明瞭」に「ゆっくり」話し、板書は「大きな字」で「丁寧」にし「すぐ消さない」、また「双方向性」が何故重要なのか、どのようにして「双方向性」を確保するか等、具体的にどのような工夫をすれば分かりやすい授業になるのか、今後、この点を習得するようなFD活動が必要であろう。
- 7) 受講動機「その他」が、前期5位、後期4位に挙げられている。しかし、現行のアンケートでは、「その他」の内訳が分からない。「その他」を選択する場合には、具体的に受講動機を記入させる等、設問形式を工夫する必要がある。
- 8) 現行のアンケート用紙では教室、施設、設備に不満があっても、具体的に何が不満なのか分からない。何が不満か具体的に分かるようなアンケートにする必要がある。

以上、今後の課題として、細々したことも含め列挙したが、3回目となるアンケート調査結果を有効に生かし、本学の授業改善のより一層の進展を願う。

表11. ポイント4「まあそうである」を超えた領域一覧

前期	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
意欲的に受講	健康・スポーツ	日本語・日本事情	情報処理	数理・物質	外国語			
内容の理解	日本語・日本事情	健康・スポーツ						
考え方向上	日本語・日本事情	健康・スポーツ	情報処理					
シラバス適切さ	日本語・日本事情	健康・スポーツ						
教官の熱意	日本語・日本事情	健康・スポーツ	文化・行動	外国語	数理・物質	政経・社会	生命・環境	総合
教授法	日本語・日本事情	健康・スポーツ						
双方向性	日本語・日本事情	健康・スポーツ	外国語					
教授法工夫	日本語・日本事情							
話し方	日本語・日本事情	健康・スポーツ						
教科書等情報	日本語・日本事情							
資料揭示見やすさ								
私語等注意	日本語・日本事情							
教室等設備	日本語・日本事情	情報処理						
総合的に見て	日本語・日本事情	健康・スポーツ	外国語	文化・行動	数理・物質	総合		

後期	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
意欲的に受講	日本語・日本事情	健康・スポーツ	情報処理	外国語				
内容の理解	日本語・日本事情	健康・スポーツ						
考え方向上	日本語・日本事情	情報処理	健康・スポーツ					
シラバス適切さ	日本語・日本事情	健康・スポーツ	情報処理					
教官の熱意	日本語・日本事情	健康・スポーツ	外国語	文化・行動	生命・環境	政経・社会	情報処理	数理・物質
教授法	日本語・日本事情	健康・スポーツ						
双方向性	日本語・日本事情	健康・スポーツ	外国語					
教授法工夫	日本語・日本事情	健康・スポーツ						
話し方	日本語・日本事情	健康・スポーツ	情報処理	政経・社会				
教科書等情報	日本語・日本事情							
資料揭示見やすさ	日本語・日本事情							
私語等注意	日本語・日本事情							
教室等設備	日本語・日本事情	情報処理						
総合的に見て	日本語・日本事情	健康・スポーツ	情報処理	外国語	文化・行動	生命・環境	政経・社会	

表12. ポイント4「まあそうである」に達しなかった領域の平均値

	意欲的に受講	内容の理解	考え方向上	シラバス適切さ	教官の熱意	教授法	双方向性
前期	3.87 ± 0.12	3.55 ± 0.17	3.80 ± 0.10	3.84 ± 0.08	3.74	3.60 ± 0.19	3.39 ± 0.14
後期	3.90 ± 0.06	3.64 ± 0.14	3.89 ± 0.06	3.89 ± 0.06	3.96	3.71 ± 0.16	3.58 ± 0.16
平均	3.88	3.60	3.85	3.87	3.85	3.66	3.49

	教授法工夫	話し方	教科書等情報	資料揭示見やすさ	私語等注意	教室等設備	総合的に見て
前期	3.64 ± 0.19	3.76 ± 0.14	3.54 ± 0.15	3.54 ± 0.16	3.77 ± 0.14	3.58 ± 0.16	3.80 ± 0.05
後期	3.68 ± 0.16	3.82 ± 0.16	3.71 ± 0.12	3.68 ± 0.16	3.83 ± 0.14	3.83 ± 0.07	3.86 ± 0.08
平均	3.64	3.79	3.62	3.61	3.80	3.71	3.83